



めいほうかん高校便り

品川の風 2012年1月 NO.8

恭賀新禧

■小賀龍二君がチャンピオンに！

川崎町本校で学ぶ小賀君がジュニア格闘技大会のスーパーバンタム級55キロでチャンピオンになり、ムエタイのプロにも合格しました。ムエタイとは、タイ式ボクシングです。両手、両肘、両脚、両膝の八箇所を用いて相手と闘うキックボクシングです。立ち技のスポーツとしては世界最強といわれます。

小賀君は本校で学びながら、弟と一緒に田川市内のジムで毎日3～4時間も練習を重ねる努力家です。今後も学業との両立に期待しましょう。



■宮城県岩沼市の「学校の震災体験知って」の紹介

岩沼市教育委員会の教員が編集し、震災体験をまとめたCD-ROMが送られてきました。次の震災に備えた記録集です。帰宅困難が予想される明蓬館の教職員や生徒に対しても役立つ内容となっています。この冊子のはしがきを引用させていただきます。「津波が押し寄せるといことは想定もせず、帰宅させてしまったことである。」という校長の苦渋のことがばざっくりと響きます。

平成23年3月11日午後2時46分、携帯電話の緊急地震速報が鳴り響くとともに非常に強い揺れに襲われた。校内は、卒業式当日であったため、1・2年生は下校しており、体育館に「卒業生を祝う会」に参加していた、卒業生と保護者、教職員約160名と職員室に職員2名がいた。長く続いた揺れが収まりかけた時に、体育館の全員を校庭に避難をさせ、人数や負傷者の有無の確認を行った。いつ何が起きるか分からないということは、十分認識しているつもりが、その場の雰囲気から、あのような強い地震に起こり、多くの人を安全に避難させたり、その後の様々な対応に追われたりという心構えは、その時には、まったくできていなかった。

携帯電話とラジオにより情報収集をする中で、東北地方から関東にかけて強い揺れが襲い大きな被害が出ていることや大津波警報が出されていることを知った。強い揺れの後であったため、生徒と保護者を校舎に戻すことは危険であると判断をし、その場から帰宅させることにした。幸いほとんど生徒は、保護者も学校にいたため一緒に帰宅させることができた。

しかし、今から振り返ると、本校の学区はそのほとんどが東部道路の西側に位置しているが、下野郷地区だけが東側であり、大津波警報が発令されていたとはいえ、東部道路近くまで津波が押し寄せるといことは想定もせず、帰宅させてし

まったことである。今後の体制整備に生かしていかなければならないことであると考えている。

■品川の今昔 その8 品川の地名の由来

今回は、すこし歴史を戻して、「品川」という地名の由来を取り上げます。地名は、なんらかの根拠があり、それを調べることによって地域の特徴や発展の歴史を知ることができます。地名には、地形、住む人、河川、産物、経済などを反映していることが多いです。

「品川」という地名の由来には4つの説があるようです。

第一は、江戸湾や小高い丘や谷があって品の良き地形であるので、「品ヶ輪」と名づけられたという説です。なるほどとうなずけます。

第二は、江戸湾に注ぐ目黒川がこのあたりで品川と呼ばれたという説です。川は上流、中流、下流で名前が異なることがよくあります。住人が目黒川の下流を品川と呼んでいたとしても不思議ではありません。

第三は、神奈川の語源とされる上無川に対して、かつては目黒川が下無川と呼ばれていたの、それが略されて品川になったとする説です。下無川が品川となるために、どれだけの時代を経てきたかを、に思いをはせてしまいます。

第四は、鎌倉時代の豪族がこの地において、品河の姓を名乗っていたらしいという説です。これももっともらしいですね。豪族は下無川を使っでの交易で栄えたのでしょうか。

■教職員の紹介 特別支援教育コーディネーター・スクールカウンセラー 中島規至氏

明蓬館には他の高校にはない特徴があります。スクールカウンセラー、特別支援教育コーディネーターを配置していることです。中島氏はこの二つの仕事で活躍し、臨床心理士としての

専門性を発揮しています。以下、中島氏の自己紹介です。

スクールカウンセラー、特別支援教育コーディネーターの中島規至(なかしまのりゆき)です。明蓬館ではスクールカウンセラーとして、生徒や保護者の皆さんの相談にのったりしています。また、特別支援コーディネーターとして、ときには授業と一緒に参加して皆さんの学習のサポートをしたり、先生方と協力させていただきながら、勉強のしかたのアドバイスなどを行っています。

ちなみに、私の地元の岐阜県では、漢字で「中島」と書くと、ほとんどの場合濁点がつかずに“なかしま”と読みます。高校生までは山に囲まれた中で生活をしていたので、スクーリングで福岡の本校に行ったときには、自然がいっぱいの雰囲気地元と同じで、懐かしく感じました。今年度は3回のスクーリングに同行したので、本校で会えた人も多と思います。のんびりした性格ですが、体を動かすことが好きなので、体育などの活動も一緒に楽しみたいと思って参加しています。よろしくをお願いします。

■今月の珈琲「教師とは」 校長 成田 滋

アメリカの学校では、教師の役割は実にはっきりしています。それぞれに自分の専門性を持ち、それをひたすら発揮することが期待されます。専門以外のことをやってはいけないのです。スクールカウンセラーが教科などを教えることは100%ありません。

専門性というと堅苦しい響きがありますが、平たくいいますと「自分の専科は小学4年生の指導である」とか「カウンセリングは私の仕事よ。」ということです。小学校には必ず音楽、体育、美術の専科の教師がいます。担任が主として教えるのは国語、算数、理科、社会です。校内にはスクールカウンセラーや言語治療士がいます。大きな学校へいきますと、ソーシャルワーカーや理学療法士がいたりします。子どもの心身の不調が報告されるとすぐ看護師やカウンセラーにまわされます。従って担任はこうした子どもの対応をする必要がありません。「自分の専門でも、役割でもない」からです。学校の文化とはそういうものです。

■学校が備えている危機に対応する際の手引きとは その2 防犯と不審者編

先月の「品川の風」では、学校が震災に備えてどのような対応をするかを紹介いたしました。特に情報連絡網 学校と保護者、教職員、安否の確認に関して、という話題を取り上げました。今月号は、「防犯と不審者編」を説明いたします。川崎町の本校は、人里から離れており防犯と不審者には特に気を遣うからです。

防犯と不審者

・施設管理上のポイント

明蓬館の本校やキャンパスは利用形態が異なり、様々な目的を持った多くの人々が訪れる。従って、防犯上弱点の多い施設と言える。セキュリティの向上と利便性とは相反する部分も多いが、学校の安全性の確保に向けた管理を行う。

・来校者と受付簿

玄関等に受付場所を設定し、受付簿へ必要事項の記載を行わせるなど来校者をチェックする。受付簿への退校時間の記入や、名札の確実な回収など、学校に滞在している人の把握を徹底する。

・施設の点検整備

門扉、囲障、窓、施錠設備、消火設備、警報等の設備について日常的に点検し、必要な補修を行う。

緊急時の役割については、一部の教職員が不在でも機能するように、複数で担当するなどの工夫をすること。

・日常の対応

[来校者への声掛け]

教職員や生徒は来校者に対して、あいさつや声かけを積極的に言い、用件確認や行き先案内を習慣化する。

[相互の連携]

安宅ふれあいセンター等の併設施設との間で安全管理のあり方について協議し、相互に連携を図る。

緊急連絡先

- ・共同の携帯用緊急災害時連絡掲示板 <http://at-learn.co.jp/em/>
- ・明蓬館緊急携帯メールアドレス s-mhk@docomo.ne.jp
- ・緊急連絡用メールアドレス 品川キャンパス info@at-mhk.jp
- ・緊急用携帯電話 品川キャンパス 090-1438-9970
- ・固定電話の災害ダイヤル 171-1-03-3449-7904
- ・品川区立総合体育館 03-3449-4400
- ・緊急用携帯電話 本校キャンパス 090-7802-3423

編集後記

今年の目標を考えてみました。趣味がどれも中途半端なので一点集中できないか、ということです。外国語を一つはものにすると、としました。そこで「ことば」の大切さということ、ハングルによる通じ合いで体験できないか考えました。数日韓国へ行って、これまで勉強してきたハングルを耳と口でどこまで理解できるか、理解してもらえるかを確かめました。やはり、まだまだ通じませんでした。諦めないで学習し続けることを心掛けます。